



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月8日

上場会社名 名糖産業株式会社  
コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangvo.co.jp>

上場取引所 東 名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水谷 彰宏

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 山崎 潔

TEL 052-521-7111

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	14,288	△8.8	△274	—	168	△69.0	161	79.2
24年3月期第3四半期	15,670	△3.4	65	△83.6	542	△40.4	89	△79.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 400百万円 (—%) 24年3月期第3四半期 △522百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	9.58	—
24年3月期第3四半期	5.35	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	42,683	31,283	72.8
24年3月期	43,627	31,172	71.1

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 31,070百万円 24年3月期 31,012百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	20.00	20.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

24年3月期期末配当金の内訳 特別配当 2円00銭

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,400	△7.9	△150	—	50	△92.0	△90	—	△5.36

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。  
詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方法の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	21,265,000 株	24年3月期	21,265,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	4,460,972 株	24年3月期	4,454,689 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	16,809,539 株	24年3月期3Q	16,810,910 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) 重要な後発事象	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、当初、震災復興に伴う内需の増加や、米国・中国などの外需に牽引されて、緩やかな回復の動きが見られました。しかし、その後、個人消費や設備投資が鈍化するなか、欧州債務問題や中国向け輸出の減少などの影響を受け、景気後退のリスクが高まりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、安全・安心で高品質な商品の提供への取り組みが強く求められる一方で、デフレ環境下で消費者マインドが冷え込むなど、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、お客様に支持される新商品の開発や満足いただける高付加価値商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を推し進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、震災特需によって販売が一時的に堅調であった前年と比べて個人消費が低調に推移し、前年同期比8.8%減の14,288百万円となりました。営業損益につきましては、事業活動の効率化やコストの削減に努めましたが、売上高の減少ならびに平成22年に稼働しました3工場の減価償却費の負担などにより、274百万円の損失となりました。前年同期は65百万円の営業利益でありました。また、経常利益は前年同期比69.0%減の168百万円となりました。四半期純利益につきましては、特別利益に投資有価証券売却益、特別損失に投資有価証券評価損を計上しました結果、前年同期と比べ特別損失や法人税等が大きく減少して前年同期比79.2%増の161百万円となりました。

事業分野別の動向は、次のとおりであります。

#### 食品事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、主力の菓子部門は新商品を投入して販売促進活動を積極的に展開しましたが、消費者の購買意欲の低下により企業間競争が激化して、減収となりました。チョコレート類は、新商品の「ドーナツパーティーチョコレート」や「味わいラムレーズンチョコレート」などは好調に推移しましたが、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」や「ナッツチョコレートコレクション」などが苦戦を強いられ、減収となりました。キャンディ類は、受託商品の売上が大きく減少しました。

粉末飲料部門は、スティック状の分包タイプの商品を充実させるなどして拡売を図りましたが、個人消費が低迷するなか販売競争が激化して、主力の「レモンティー」や「ロイヤルミルクティー」などの売上が落ち込み、減収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、新商品を投入して営業展開を図りましたが、需要が広がらず減収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、新商品提案により品揃えを充実させるとともに積極的な営業施策を推進しましたが、主力のパウムクーヘン類やゼリー類は前年の震災特需の反動もあり減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ8.6%減の12,644百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の減少ならびに減価償却費の負担などにより、前年同期比62.8%減の164百万円となりました。

#### 化成品事業

酵素部門につきましては海外を主な市場としており、円高や原子力発電所の事故に伴う海外での風評被害の影響を引き続き受けました。海外企業との販売競争が激化するなか、販路拡大を目指して精力的な営業活動を推進しましたが、チーズ用凝乳酵素「レンネット」および脂肪分解酵素「リパーゼ」はともに苦戦を強いられ減収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料の「デキストラン」やMR I（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬「フェルカルボトラン」を始めとする「デキストランマグネタイト」の出荷が増加して、増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ9.2%減の1,395百万円となり、営業損益につきましては、売上高の減少、円高の影響ならびに減価償却費の負担などにより、65百万円の損失となりました。前年同期は9百万円の営業損失でありました。

#### 不動産事業

不動産事業につきましては、昨年2月に倉庫の賃貸契約が終了したことなどにより、売上高は前年同期に比べ15.4%減の248百万円となり、営業利益は前年同期に比べ28.6%減の102百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ188百万円減少し、9,364百万円となりました。これは、現金及び預金が959百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ754百万円減少し、33,319百万円となりました。これは、減価償却などにより有形固定資産が572百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ943百万円減少し、42,683百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ478百万円減少し、5,096百万円となりました。これは、その他に含まれる短期借入金が570百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ576百万円減少し、6,303百万円となりました。これは、長期借入金が686百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,054百万円減少し、11,400百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ111百万円増加し、31,283百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が239百万円増加したことなどによります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向等を踏まえ、平成24年5月15日に公表いたしました平成25年3月期の通期連結業績予想を修正しております。

当該予想の修正に関する事項は、本日（平成25年2月8日）発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,384	1,424
受取手形及び売掛金	4,591	4,765
有価証券	398	700
商品及び製品	885	926
仕掛品	297	367
原材料及び貯蔵品	747	845
その他	251	335
貸倒引当金	△4	△2
流動資産合計	9,553	9,364
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,455	5,206
その他(純額)	7,588	7,264
有形固定資産合計	13,044	12,471
無形固定資産	86	83
投資その他の資産		
投資有価証券	20,206	20,266
その他	804	568
貸倒引当金	△68	△70
投資その他の資産合計	20,942	20,764
固定資産合計	34,073	33,319
資産合計	43,627	42,683

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,026	2,161
1年内返済予定の長期借入金	870	914
未払法人税等	116	3
返品調整引当金	8	8
その他	2,553	2,008
流動負債合計	5,575	5,096
固定負債		
長期借入金	2,837	2,150
繰延税金負債	1,451	1,580
退職給付引当金	2,152	2,176
役員退職慰労引当金	17	15
その他	421	379
固定負債合計	6,879	6,303
負債合計	12,454	11,400
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	33,950	33,775
自己株式	△8,535	△8,542
株主資本合計	26,804	26,622
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,207	4,447
その他の包括利益累計額合計	4,207	4,447
新株予約権	160	213
純資産合計	31,172	31,283
負債純資産合計	43,627	42,683

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	15,670	14,288
売上原価	10,945	10,077
売上総利益	4,725	4,210
販売費及び一般管理費		
販売促進費	1,738	1,678
運送費及び保管費	828	807
広告宣伝費	53	49
給料手当及び賞与	1,151	1,115
退職給付費用	70	63
役員退職慰労引当金繰入額	5	4
貸倒引当金繰入額	0	0
減価償却費	78	53
その他	732	711
販売費及び一般管理費合計	4,659	4,485
営業利益又は営業損失(△)	65	△274
営業外収益		
受取利息	15	18
受取配当金	421	398
持分法による投資利益	47	42
その他	80	54
営業外収益合計	565	514
営業外費用		
支払利息	35	29
固定資産除売却損	27	24
支払手数料	2	2
その他	22	14
営業外費用合計	88	70
経常利益	542	168
特別利益		
投資有価証券売却益	—	54
特別利益合計	—	54
特別損失		
投資有価証券評価損	245	48
特別損失合計	245	48
税金等調整前四半期純利益	297	174
法人税、住民税及び事業税	160	18
法人税等調整額	47	△5
法人税等合計	207	13
少数株主損益調整前四半期純利益	89	161
四半期純利益	89	161

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	89	161
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△612	239
その他の包括利益合計	△612	239
四半期包括利益	△522	400
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△522	400

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,839	1,536	293	15,670	—	15,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1	1	△1	—
計	13,839	1,536	295	15,672	△1	15,670
セグメント利益又は損失(△)	442	△9	143	576	△510	65

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,644	1,395	248	14,288	—	14,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,644	1,395	248	14,288	—	14,288
セグメント利益又は損失(△)	164	△65	102	200	△475	△274

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

当社の持分法適用会社である名糖アダムス株式会社(決算日12月31日)は、新たな清須工場(愛知県清須市)の設立および設備移設に伴い、平成24年11月21日開催の取締役会において名古屋工場(名古屋市西区)の閉鎖を決議いたしました。

これに伴う固定資産除却損および移設費用等の発生により、当社において持分法による投資損失の計上が見込まれます。